

■ 教育講演6

国際医療情報時代の漢方医学

渡辺 賢治（慶應義塾大学医学部漢方医学センター長）

本来伝統医療というのはその地域に根ざした医学であったはずであるが、世界のグローバル化の流れの中で、国際化の潮流はここ数年来激しさを増している。

医療の国際比較を行う上で欠かせないのが、保健統計であり、その基礎となるのが国際疾病分類（ICD）である。ICDは、正式な名称を「疾病及び関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems」と表し、異なる国や地域から、異なる時点で集計された疾病、傷害及び死因の統計を国際比較するために、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関（WHO）が作成する分類である。

ICDはもともと死因統計だけであったが、疾病統計にも波及し、疾病だけでなく、生活機能をもカバーするような分類となっている。次回ICD-11への改訂は、従来の改訂作業とは大幅に異なる。まずは電子媒体が主体となる。もちろんITの発達していない国のために、紙媒体は残されるが、電子媒体とすることで、疾病コード同士のリンクが可能となる。2番目の点は用語がつくことである。今までのICDはコードのみで用語がなく、その解釈について異論があると正しいコードを振ることができずに統計情報に影響を与えることになる。3つ目はコード同士の関連性が分かることである。これは用語がつくことによって、オントロジー・エンジンにより、コード同士の関連性が理解可能になる点である。そして最後に情報モデルができることである。これはその疾病の背景因子（遺伝子情報、環境因子、危険因子）や、病理、治療、予後などの情報が付随する点である。これらによって、ICD-11が単なる改訂ではなく、IT時代にマッチした分類となることが理解できると思う。

このICD-11に伝統医学を入れようという動きがある。このプロジェクトは2005年5月の北京にWHO西太平洋地域事務局主催の「情報の標準化プロジェクト」に始まる。その中のサブグループとして疾病分類のワーキンググループが発足したが、2006年1月に筑波で会議を行った後、2006年6月には疾病分類のプロジェクトが独立した形で改めて、第1回の東アジア伝統医学疾病分類会議を行った。この会議にはWHOジュネーブからICD担当官のDr. Ustunが参加したことにより大きく進展し、ICD-11への改訂に向けて東アジア伝統医学分類を作成することで合意した。それを受け、10月末からチュニジアで行われたWHO-FIC（WHO国際分類ファミリー）会議においてWHO西太平洋地域から4人の代表が参加し、その必要性をアピールすることで、検討課題の一つに加わることになった。2007年8月に東アジア伝統医学分類（international classification of traditional Medicine: ICTM）のアルファ版が完成され、それを2007年11月のイタリア・トリエステのWHO-FICネットワーク年次総会にて報告した。2008年6月にソウルでのWHO西太平洋地域事務局主催の会議を最後に本プロジェクトはWHOの西太平洋事務局からWHO本部のプロジェクトになった。2009年3月に準備委員会がジュネーブで行われ、5月に香港で世界中の伝統医学の代表を集めた会議が開催された。この会議はWHO本部の伝統医学部門（Traditional Medicine）、ICD部門（Classification, Terminology and Standards）、品質と安全性の部門（Quality and Safety of Medicine）の三部門合同の会議であった。

2009年10月にソウルで開催されたWHO-FICネットワーク会議年次総会では、伝統医学をICDに入れていく重要性について言及され、準備が整った状況にある。

2010年は、本プロジェクトが大幅に進展する予定である。これから具体的に作業が進む中で一番心配しているのは、わが国に十分な体制ができていないことである。2009年のWHO-FIC会議では、韓国が伝統医学のオントロジー・モデルを示した。中国は国が中医学の拠点病院を結んで、医療情報を収集するインフラ整備を進めている。

わが国は伝統医学の医療情報が立ち遅れている。伝統医学疾病分類を作る作業で、日本が大きく遅れを取ることが懸念される。早急にわが国の体制作りを急ぐことが求められている。

略歴

1984年 慶應義塾大学医学部卒業
1984年 慶應義塾大学医学部内科学教室
1990年 東海大学医学部免疫学教室助手
1991年 米国スタンフォード大学遺伝学教室留学
1995年 北里研究所東洋医学総合研究所

2001年 慶應義塾大学医学部東洋医学講座助教授
2008年 慶應義塾大学医学部漢方医学センターセンター長・准教授